

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
令和2年度事業計画（変更）

【基本方針】

主として独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）からの委託を受け、組踊等の公開等の事業について次の業務を行う。

- 1 沖縄伝統芸能等の公演
- 2 伝統芸能伝承者養成業務
- 3 調査研究、資料収集・利用業務
- 4 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- 5 国立劇場おきなわの施設の管理運営及び劇場施設の利用に関すること
- 6 その他必要な業務

1 沖縄伝統芸能等の公演（132,369千円）〈前年度118,091千円〉

(1) 自主公演の開催（119,065千円）※うち、1,579千円は下記(4)の沖縄県・国立劇場おきなわ鑑賞層拡大事業と重複

①自主公演

〔目 的〕 沖縄伝統芸能等の公演

〔事業内容〕 自主公演（下記の30公演41回）の稽古及び開催

○定期公演（17公演20回）

公 演 名	期 日	回数
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」※中止	4月11日	1
組踊「賢母三遷の巻」※中止	4月25日	1
三線音楽「古典音楽の美」※中止	5月16日	1
琉球舞踊「男性舞踊家の会」※中止	6月13日	1
沖縄芝居「武士松茂良と平安山次良」※中止	6月27日、28日	2
組踊「執心鐘入」	7月18日	1
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」※中止	8月29日	1
組踊「花売の縁」	9月26日	1
民俗芸能「南風原町の民俗芸能『ふえーばる村踊り』」※中止	10月18日	1
※組踊「伊祖の子」	12月12日	1
琉球舞踊「男性舞踊家の会」	12月19日	1
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	1月16日、17日	2
組踊「孝行の巻」	1月30日	1
三線音楽「唄方」	2月6日	1
沖縄芝居「チャー木の精」	2月13日、14日	2
※組踊「手水の縁」	3月13日	1
琉球舞踊「歌舞集」	3月20日	1

○企画公演（6公演6回）

公 演 名	期 間	回数
千本ゑんま堂狂言※中止	6月7日	1
琉球講談	7月11日	1
ゆらていく遊ば	10月3日	1
アジア・太平洋地域の芸能	11月8日	1
国立劇場寄席	11月14日	1
創作舞踊と新作組踊	3月27日	1

○研究公演（1公演1回）

公 演 名	期 間	回数
琉狂言※中止	5月23日	1

○普及公演（6公演15回）

公 演 名	期 間	回数
琉球舞踊鑑賞教室 ※中止	8月8日	1
※親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」※中止	8月15日	2
沖縄芝居鑑賞教室	9月17日～19日	3
※組踊鑑賞教室「執心鐘入」	10月31日	2
組踊鑑賞教室「二童敵討」	11月18日～20日	6
※はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「二童敵討」	11月21日	1

※印は、日本博事業（※採択された場合）

(2) 自主公演の開催準備（342千円）

[目 的] 公演事業委員会で、令和3年度開催の自主公演のあり方について検討する。

[事業内容] 公演事業委員会を開催し、有識者から様々な意見を聴取、検討する。

(3) 沖縄県文化観光戦略推進事業(文化観光基盤整備事業)（10,757千円）

[目 的] 上演機会の多い演目について、観光客の沖縄の芸能に対する認知度や理解度を高めるための取り組みを行う。

[事業内容] 実演家やテクニカルスタッフを活用し、沖縄の伝統芸能分野における広報用映像や多言語字幕のソフトを作成する。

(4) 沖縄県・国立劇場おきなわ鑑賞層拡大事業（6,128千円）※うち、1,579千円は上記(1)と重複

[目 的] 国立劇場おきなわの公演を鑑賞する機会の少ない層に影響力がある集団に対して、ワークショップ等を行い、劇場までのバスチャーター経費を助成する。

[事業内容] ・貸切バスの費用を助成する。
・組踊ワークショップ等を開催する。

(5) 地域の文化芸術振興事業 (3,413千円)

[目的] 実演家による舞台芸術公演等に触れる機会の少ない離島・北部地域等を対象として、当劇場で上演された演目の再演、展示、おでかけ講座・ワークショップを実施し、当劇場の取組をPRするとともに、組踊等の伝統芸能の普及を図る。

[事業内容] 当劇場で上演した公演を離島・北部地域等で再演する。
※実施場所は調整中。

2 伝統芸能伝承者養成業務 (22,560千円) (前年度22,959千円)**(1) 組踊(立方・地方)の伝承者養成事業 (19,869千円)**

[目的] 国の重要無形文化財「組踊」立方・地方の伝承者を養成する。

[事業内容] 第6期研修生に対し、実技(組踊・副・基礎)等研修及び発表会を実施するとともに、組踊養成事業の計画並びに評価を専門的観点から検討するため、養成事業委員会を開催する。

(2) 既成者研修事業 (2,691千円)

[目的] 研修を修了した者に既成者研修を行い、技芸の向上を図る。

[事業内容] 組踊研修を修了した若手実演家に対し、組踊実技の研修及び若手伝承者公演を実施する。

3 調査研究、資料収集・利用業務 (33,332千円) (前年度34,231千円)**(1) 芸能記録作成 (28,126千円)**

[目的] 組踊等沖縄伝統芸能の調査を実施し、収集、整理及び記録作成を行う。また、自主公演の記録、上演資料集、公演記録台本等の作成等を行う。

[事業内容] 組踊等沖縄伝統芸能の調査、収集、整理及び記録作成を行うとともに、自主公演の公演記録、上演資料集及び公演記録台本の作成並びに「琉球・沖縄芸能史年表」の出版を行う。

(2) 組踊等沖縄伝統芸能の図書資料等の収集・整理・利用 (5,206千円)

[目的] 組踊等沖縄伝統芸能の保存・継承に資する図書資料等の収集、整理を行う。また、芸能資料展示、公演記録映像の公開を行い、一般の利用に供する。

[事業内容] 図書資料等の収集整理、芸能資料展示、公演記録映像の公開を行い、一般の利用に供する。また、公演記録鑑賞会及び沖縄伝統芸能等公開講座を開催する。

4 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること (8,513千円) (前年度8,040千円)**(1) 劇場施設の貸付**

[目的] 劇場施設(大劇場、小劇場及び稽古場)の貸付を行い、芸術・文化の振興に寄与する。

[事業内容] 劇場施設の貸付を行い、国民の芸術・文化活動等の利用に供する。

5 国立劇場おきなわの施設の管理運営（592,537千円）〈前年度584,954千円〉**(1) 国立劇場おきなわの施設の管理運営**

- [目的] 振興会からの委託を受け、国立劇場おきなわの施設の管理運営を行う。
[事業内容] 国立劇場おきなわの施設の管理運営。

6 その他必要な業務（54,054千円）〈前年度26,115千円〉**(1) 「国立劇場おきなわ友の会」の会員募集及び講演会等の開催（4,993千円）**

- [目的] 国立劇場おきなわ主催公演を継続的に鑑賞する人への優遇を目的として、「友の会」会員の募集を行う。また、会員の特典の一つとして、講演会、バスツアー等を開催する。

[事業内容] 「国立劇場おきなわ友の会」の会員募集、会報の発行及び講演会等の開催。

(2) 募金活動の推進（640千円）

- [目的] 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の活動資金の造成を図る。
[事業内容] 企業等へ寄附金を依頼する。

(3) 文化プログラム関連事業（13,656千円）**①企画展示における多言語リーフレットの作製（154千円）**

- [目的] 初めて沖縄の伝統文化に触れる外国人観光客にも、組踊等沖縄伝統芸能の魅力をわかりやすく伝える。

[事業内容] 企画展において、多言語パンフレット・展示解説リーフレットを作製し、配布する。

②チケット販売システムの英語化（1,861千円）

- [目的] 県内在住外国人はもとより、今後さらに増えると見込まれる海外からの観光客を取り込むため、英語でのチケット販売を強化する。

[事業内容] 国立劇場おきなわWeb チケット販売サービスにおいて、英語での予約・販売が行えるように英語システムを導入するとともに、利用方法、個人情報保護方針、特定商取引法に基づく表示、利用規約を翻訳する。

③男（女形の）芸の継承と発信（県外公演等）（4,800千円）

- [目的] 沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、県外公演等を実施することで、組踊等伝統芸能への理解を深めていただくと共に、伝統文化を通じた交流の拠点となることを広くアピールする。

[事業内容] 県外の地方自治体等の協力を得て、「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能の公開と、若手実演家への芸の継承及び調査研究（「講座」「展示」「シンポジウム」関連イベント等）などの体験型企画を一体的に行い、県内外に広く発信する。

④組踊ワークショップ等の開催（6,775千円）

- [目的] はじめて組踊等の沖縄伝統芸能に触れる方にも興味を持っていただけるよう、県内外において組踊ワークショップ等のイベントを開催する。

[事業内容] 自主公演や県外公演にあわせ組踊ワークショップ等のイベントを県内外において開催することで、沖縄伝統芸能の魅力を伝えていく。

⑤電話通訳サービスの導入（66千円）

〔目的〕外国人客と円滑なコミュニケーションが図れるよう窓口の体制整備及びサービス向上を図る。

〔事業内容〕劇場への来場または電話による問い合わせをされる外国人客に対応するため、民間会社の提供する電話通訳サービスを利用する。

(4) 「日本博」事業関連（34,765千円） ※採択された場合。上記1(1)自主公演の開催と重複

①自主公演のうち日本博事業として申請した公演

公 演 名	期 日	回数
親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	8月15日	2
組踊鑑賞教室「執心鐘入」	10月31日	1
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「二童敵討」	11月21日	1
組踊「伊祖の子」	12月12日	1
組踊「手水の縁」	3月13日	1

②オーディオガイドシステムの導入

〔目的〕外国人客や県外観光客にも組踊公演を楽しんでいただくため、オーディオガイドを提供する。

〔事業内容〕普及公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『二童敵討』」等において、日・英・中・韓4ヵ国語のオーディオガイドを導入することで、外国人客や県外観光客の観劇をサポートする。

③親子及び外国人のための組踊鑑賞教室に関する広告宣伝費

〔目的〕「親子のための組踊鑑賞教室」等をPRするため、多言語のチラシやポスターを作成するほか、外国人向けの広報媒体に広告を掲載する。

〔事業内容〕「親子のための組踊鑑賞教室『万歳敵討』」等の多言語版チラシ・ポスターの制作及び英字新聞等の広告媒体への掲載。

④外国人のための組踊ワークショップ

〔目的〕外国人客が組踊に対する理解を深め、公演をより楽しんでいただけるよう、英語通訳のある組踊ワークショップを開催する。

〔事業内容〕普及公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『二童敵討』」の開演前に、英語通訳のある組踊ワークショップを開催し、レクチャー・体験等を通して組踊への理解を深めていただくことで、外国人客の観劇をサポートする。

⑤連続講座「首里城御冠船躍」

〔目的〕舟漕ぎ競争や花火、紅型衣装など、芸能の周辺も視座に入れ、夏の暑さを逆に楽しみ、独自の文化を育ててきた琉球芸能を再認識する。

〔事業内容〕3回の講座を開催し、首里城の歴史と環境から琉球芸能を考察するとともに、近年発見され、沖縄県立芸術大学との共同研究により実態が明らかになった『火花方日記』に記された琉球の花火を復元する。